

2025年11月19日

東北大学大学院法学研究科学生等支援基金

在外研究報告書

法学研究科長 殿

職名 准教授

氏名 諸岡慧人

1. 研究期間： 2023年9月1日 ～ 2025年8月31日（2年）
2. 研究場所： フンボルト大学ベルリン
3. 研究テーマ： ベルリン州公法の分析—直接民主制と「自治」の諸相—
4. 研究報告・研究実績 本在外研究は、ベルリン州公法の標準的教科書を執筆するクリスティアン・ヴァルドホフ教授の下で実施した。実施者は地方自治法を狭義の関心対象とする者であるが、同分野の比較法においてドイツを題に採るならば州法の次元での検討が必要不可欠である。よって本在外研究は、まさに実施場所であるベルリン州の公法を、我が国の公法理論および社会の現状の視点から分析し、興味深い点を二つ選んで検討を行ったものと位置づけられる。 第一に、インフレとそれに伴う家賃高騰が社会問題化している大都市ベルリンにおいて進行している、大規模賃貸住宅供給会社の「社会化」をめぐる議論を取り上げ、その制度的前提を整理し今後の住宅法研究および比較法研究の基礎を得た。 第二に、ベルリン州憲法および行政組織関係法令を分析し、ベルリン州という都市州において「区」が有する「法人格を持たない行政の単位」という位置づけについて、関連する基本法解釈やベルリン州憲法解釈および実定法の状況を検討した。この研究により、自治をめぐる憲法上の諸原理の調整といった理論的課題を分析する基礎作業を終えた。 また、本在外研究の過程では計6回の口頭報告を行った（いずれもドイツ語）。  <在外研究に基づく研究成果発表のうち主なもの（論文・口頭報告等）> ・諸岡慧人「ベルリン州における「社会化」の試み」斎藤誠=山本隆司編『行政法の理論と実務 宇賀克也先生古稀記念』859頁以下（有斐閣, 2025） ・諸岡慧人「ベルリン州の「自治」」（2026年刊行予定の論文集に収録予定）